
イナズマイレブンGo! イギリスからの転入生

Babylon

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

イナズマイレブンGo！ イギリスからの転入生

【Nコード】

N0725V

【作者名】

B a b y l o n

【あらすじ】

雷門中に転入してきたのはイギリスに留学してた少女。しかもサッカー部入部ってこの子何者?!?!

話にあまりあわせず作ったオリジナルストーリーの完全夢小説です。アニメとはまったく違うフィクションなのでご注意下さい。
あと、オリジナルキャラクターが出ます

1、プロローグ（前書き）

オリジナルストーリー、オリジナルキャラクターです。
それを承知でご覧ください。

1、プロローグ

「よっしゃっ！」

一人の少女が気合いを入れたのか手をグツと握った。

赤茶色の髪をしたちよつと身長が小さめの少女が雷門中に入っていた。

「校長先生、失礼いたします。」

理事長の冬海先生に連れられて少女は校長室に入っていた。

そのころサッカー部は朝練をしていた。

雷門サッカー部はサッカー強豪校。しかし部員数は少ない。

キャプテンの神童拓人は学校登校時に校門前で赤茶色の髪の少女を見た。

……………転校生か。

と、すぐわかった。

「……………どう！！神童！！！」

神童を呼んだのは小学校からの親友、霧野蘭丸。ピンク色の髪にツ―テール、動きもなめらかでよく女子に間違えられる。

「き……………霧野か……………」

「何を考えてたんだ？？どうした」

蘭丸は不思議そうに聞いた。

「いや……………別に」

「……………？そっか……………」

2、新入部員（前書き）

神童は”妹”を考えていた。

拓人が10歳の時、妹は9歳で天才と呼ばれ、9歳の誕生日に外国を旅立ったまま、連絡がついていない。

もしかしたら……とも言われている。

拓人は妹がいつか帰ってくると信じている。

そして何よりも妹を大切にしていた。

はあ……つとため息をついた。

「しん様……」

遠くから茜が心配していた。

そのころ赤茶色の髪をした少女は冬海、校長と共にある部活に向かっていた。

サッカー部が朝練をしているさいちゅう、遠くの方から

「円堂監督！！ちよつとお話が……」

と言う声がした。

冬海先生だ。

円堂は冬海先生の方へ行った。

「…………誰だあれ？」

水鳥は冬海先生と校長が円堂と話をしている近くに誰かが見えた。

その水鳥の声にいち早く気付いたのは、拓人だった。

そう。あの赤茶色の髪の少女だった。

やはり小さく、小柄で、でも顔は見えなかった。

髪の毛はポニーテールをしていて、ストレートだった。

そして円堂が戻ってきた。

あの赤茶色の髪の少女を連れて。

円堂に何か説明を聞いている。

「水鳥さん……あれ誰でしょうか？」

葵がいった。

さあ？と水鳥は言った。

でも見た目から一年生とわかった。

「みんなっ！！集合だっ！！」

円堂が集合をかけた。

少女ははずかしがって円堂の後ろに隠れてしまった。

サッカー部の部員が全員集まった。

「サッカー部に新しい仲間だ！！！」

円堂は喜びながら言った。

一同は驚きを隠せない。

「新しい……部員？」

倉間が言った。

「しかも松風！！剣城！！西園！！おまえらと同年だ。」

「……ええっ！？」「」

天馬、京介、信助は声をそろえた。

「ってことは……私も？」

葵が言った。

「そうだ」

円堂は言った。葵は正直に嬉しかった。

すると少女は出てきた。

顔がはつきりわかった。

整っていて、美しかった。

「彼女は神童琴。イギリスからの転入生だ。」

一同は”神童”と言う言葉に反応した。

「神童琴です。イギリスでしたが、イギリスにいる前の記憶は事故で失いました。だから日本語もまともにしゃべれてないですよね？」

拓人は驚いた。

いなくなつたはずの妹と同姓同名でしかも学年が同じなんて……。
しかし髪の毛が違う。

拓人と似て、天然パーマだったはずだった。
だから拓人は別人と判断した。

「ちゅーかなんで今どき??」

浜野が言った。

「神童琴には、試合に出てもらう。」

円堂は言った。

「って事は……選手?」

三国はきょとんとして言った。

「そうだ。」

一同はもつと騒がしくなった。円堂は琴にユニホームをわたした。

「練習の時や、試合に着るユニホームだ」

琴は受け取り、ありがとうございます。と言った。

すると冬海先生と校長は琴を呼びにきた。

「では……また。」

と言って、さつていった。

2、新入部員

一同はやはり頭がこんがらがっていた。

神童と言っ名字……

でも神童に妹がいたと知っているのは拓人本人だけのはずだ。

だからみんなは

たまたまだよな。

と流した。

琴は校長室にいた。

琴が留学していた理由はピアノが優れていたためだった。

しかし、ヨーロッパに渡った際に車に跳ねられ、記憶を失った。

琴はピアノを一から習った。それから4年の月日が過ぎた年にあずかり手であつた、家主が亡くなり、日本に帰ってきたのだ。

「家主様から聞いた話なのでよく分かりません……すみません」

琴はしょんぼりしていた。

「今は施設に預かってもらってますが、そのうち本当の家族が迎えにきてくれるのを待ってるんです。」

その時チャイムが鳴った。

では、失礼しました。と言ってから校長室を後にした。

丁度琴が出た時に天馬と葵と信助が通りかかった。

「あ、琴ちゃん!!」

葵が気付いた。

「えっと……あ、空野さんに、松風さんに、西園さん!」

琴が近づいた。

琴の手にはクラスの書いてある紙を持っていた。

紙に書いてあるクラスは3人と一緒のクラスだった。

「じゃ、一緒にいこうよ!!」

天馬が言った。

「じゃあ……よろしくお願いします」

4人は教室に向かった

3、音楽室

琴は疲れていた。

学校のことを覚えたり、クラスの場所を覚えたりと、転入早々忙しかった。

幸い、天馬、信助、葵とはクラスが一緒だった。

琴はサッカー部に向かう途中、音楽室を見つけ、鍵が空いていた。

「3：20……まだ平気か」

とおもい、ピアノを見つけピアノを開けた。

丁度その頃近くを拓人、そして蘭丸が歩いていた。

「なア神童……さっきの転入生、妹じゃ無いか？」

拓人は蘭丸の言葉に驚いた。

「おまつ！！なんで妹がいたって知ってんだよ?!」

拓人は蘭丸に聞いた。

「なんでって……小学生の時……」

蘭丸の話によると拓人の妹の見送りに一緒にいた、と言っている。

そういえば……

と、拓人は思ったその時だった。

くく

ピアノのきれいな旋律が聞こえた。

「ドビュッシーの……月の光……」

なめらかで心地よい、どこか懐かしい曲だった。

どうせ先生が先輩が弾いてるだろ。と思ったが今、先生達は会議中だ。

「神童、ちよつと行こうぜ」

蘭丸が言った。

音楽室を覗きに近づいた。

ピアノを弾いていたのは、琴だった。

琴は拓人と蘭丸に気付いた。

「あ、神童先輩に霧野先輩!!」

琴は話掛けた。

「神童さんもピアノ弾けるんですね??弾いてもらってもいいですか??」

拓人は一瞬迷ったが、弾くことにした。

拓人がピアノを弾きはじめると琴の目は輝いた。

琴の隣にいた蘭丸は少し複雑だった。

その時、琴が急に倒れた。

隣にいた蘭丸はすかさず支えた

「神童っ!!!神童っ!!!」

拓人は何が起こったか分からなかった。

蘭丸も、琴も何が起こったか分からなかった。

「……………き、霧野さんっ!!!すみません…」

琴は特に何も無かったようだ。

「いや…………おれは別に…………／／」

蘭丸は時計をみて焦った。

「神童っ!!!練習が始まるぞ!!!」

拓人もそれを知って、急いでピアノをかたづけた。

4、実力

3人はそれぞれ、更衣室に向かった。

一年女子の更衣室は意外と空いていた。

「あれっ！？琴ちゃんじゃん！！」

同じクラスの子がいた。

「そのユニホームって……サッカー部？！？」

どうやらとても驚いたようだ。

「うん。好きだったから……あ、ごめん！！もう始まっちゃうから！！じゃあね」

と言って更衣室を出た。

でも琴は思った。

サッカー部どこでやんの…

そう思ってたら丁度前を天馬達が通りかかった。

「あー！！琴ちゃん！！！！」

葵が気付いた。

「葵ちゃん！！あのさサッカー部まで一緒に行っていい？？」

琴は恥ずかしかった。

「いいよ！！じゃあ行こう！！」

後ろから拓人と蘭丸が見ていた。

後ろから見るとよく分かるのだが、本当に小柄だ。

拓人はやっぱり妹なのか？と疑っていた。

でも何ヶ所か違う。

一番は髪の毛。天然パーマで拓人と同じような髪型のはずだった。

「お前ら遅いぞー！！」

円堂が言った。

すでに練習は始まっていた。

剣城はユニホームを着てベンチにいた。

琴は剣城を知らない。

「ねえねえ。松風くん。あそこのベンチに座ってる子って同年？」

「そうだよ」

天馬は応えた。

「神童琴っ！！」

円堂は琴を呼んだ。

琴はキョトンとしている。

「ゴールに向かってドリブル、シュートしてみる」

一同は気になって、一斉に琴を見た。

「……………わかりました」

キーパーには三国がいる。

ディフェンスも何人かいる。

「いきます。」

一同は息をのんだ。

琴はボールを蹴りはじめた。

ボールを蹴ったと思えばもうゴール前にいた。「えっ……………!？」

一同は目を疑った。

琴はゴールに向かってボールを蹴った。

「どんなシュート技なんでしょうか？」

茜は水鳥に言った。

「さあね??」

と言う会話をしていたが、琴はシュート技と言うものを知らない。しかし、琴のボールの威力はすごかった。

キーパーをやっていた三国が一番よくわかった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0725v/>

イナズマイレブンGo! イギリスからの転入生

2011年10月9日01時03分発行